

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271402200
法人名	有限会社 春陽会
事業所名	グループホーム うららの里
所在地	〒859-2204 長崎県南島原市有家町蒲河415 (電話) 0957-82-6363

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(H19年8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.1人, 4.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費等 3,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 960 円		

### (4) 利用者の概要( 8月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	70歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田医院 しろの医院 よしだ歯科クリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームうららの里は入居者が春のうらかな日差しのように、穏やかに過ごしてもらいたいという願いを持って建てられた。その理念も介護経験豊富なスタッフと話し合い、「陽気に 楽しく いきいきと！」過ごしていただけるように日々笑顔で入居者に対して尊敬の念をもって理念を实践されており、入居者の穏やかな微笑みから理念の浸透が伺える。ホームの中庭には美しい芝生が広がり、そこから平成新山が一望できる。室内は天窓からの光が優しく照らし、観葉植物などの緑が心を和ませる。また夏祭りや中高生の体験学習の楽しそうな様子の写真が飾られており、地域との交流も伺える。入居者も雑巾縫いや洗濯物を畳むなど、ホームに自分の居場所を見出されておられる。食事のメニューは豊富で、出来るだけ沢山の野菜を取り入れながら酢の物等を含めバランスよく、またおいしくいただける工夫がされている等、いきいきと過ごすことの出来るホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点に対して改善計画シートを用意され、意欲的に取り組まれる等、評価の意義を深く理解されている。また質の向上にも熱意をもたれており、真摯に改善点に向き合われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者一人にまかせることなく、職員全員で考えられ、今現在足りない部分を見出されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市町村担当者や民生委員、また入居者のご家族等、様々な方が集まり、当ホームでのケアのあり方や行事について話し合われている。介護教室の開催に関して、市町村担当者からまだ前例がない事や、今の段階では申し込みも少ないのではないかとの見解により、今後調べるということになっている為、また介護教室の開催までには到っていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者は入居者のご家族とも親しく、意見が出た時はすぐに対応される。また連絡も訪問された度に話をされ、あまり訪問されない方には便りを利用されている。状態が変化した際は随時電話等で連絡されるなどの工夫がされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の中高生が体験学習に来られたり、夏祭りで地域の方と交流をもたれている。また当ホームの代表や事務長がホーム付近のゴミ拾いなどを積極的になされている。しかし自治会や老人会に参加する事で交流を深めるところまでは到っていない。今後は様々な会に参加され、さらなる地域との深い交流をすることに期待する。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員でこれまでの理念を見直し、地域を意識した上で入居者に対して、「陽気に 楽しく いきいきと！」と改められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者のプライドを傷つけないように言葉がけなどに注意されるなど、毎朝のミーティングで話し合われ、入居者が「このグループホームに来て良かった」と思っていたる様に職員一丸となって、日々理念を実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中高生の体験学習や夏祭りなどで地域の方と交流されている。また当ホームの代表や事務長がホーム付近のゴミ拾いなどを積極的になされている。しかし自治会や老人会などにはまだ参加されておらず、継続的な地域との付き合いとまではなっていない。		今後は自治会や老人会に参加されるなど、さらに地域の方々との付き合いが深まり、地域の一員として違う面で生きがいや役割を見出す事が出来る様、努力されることに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で考えられ、現在足りない部分を見出されている。また外部評価でホームの内側から見えずらくなっている部分に気付かされ、今後の改善に取り組まれる等、評価の意義を深く理解されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を地域の方や利用者家族の方と共に定期的に行われており、具体的に意見が出される。その意見を基に日々のサービスの向上に活かされている。		

グループホーム うららの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者と連絡をし、介護教室を開く等して今できることを取り組もうと話し合いをされているが、未だに依頼される事がなく、協働できているとは言い難い。		現在地域密着型となり、今まで以上に市町村担当者との協働関係は大切になる。それ故に当ホームの現状を報告し、サービスの質の向上に協働出来るよう、さらなる働きかけに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族が訪問された時には行事の写真やビデオなどで報告されている。また訪問が少ないご家族には定期的に便りを出される折りに報告されている。金銭管理は家族の希望で数名ではあるが、出納帳に定期的な家族確認(記名)をし確実な報告の実施をされている。随時必要な場合は電話連絡等、個々に合わせて報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでご家族の意見が出されるなど、日々気軽に話が出来るように雰囲気づくりをなされている。また意見を頂いた際はすぐに対応されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合には利用者の不安を取り除くためにコミュニケーションを第一にされ、名前と顔を覚えてもらい、馴染んで頂くように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングや月に1度のケア会議、また外部の研修会に参加されるなど、取り組まれている。しかし、まだホーム内の勉強会を行うまでには到っていない。		今後はさらにサービスの質の向上を目標とされているので、感染症の勉強会、また研修会に参加された職員を講師として職員全員で勉強会を開かれるなど、サービスの質の向上に期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心として同業者と盛んに交流され、サービスの質の向上のために探究する意欲が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>管理者が時間をつくり本人・家族に会う事で少しでも今までの生活歴や今抱えている問題・悩みを知り、理解をして、顔なじみになり特にご家族と信頼関係を結ぶ努力がなされている。常にご家族と相談をしながら、当ホームに馴染んでいただけるように工夫されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と会話をする中で昔話を教えて頂いたりするなど、一方的に介護することのない関係作りがなされている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>朝食など食事をとる時間や、お風呂などは入居者の希望に合わせるなど、臨機応変に対応されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活の中で入居者が持つ課題を見出したり、ミーティングで検討されている。また本人の意見を尋ねるなどして介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて介護計画に基づき見直しをし、「施設サービスモニタリング表」に達成度と現状等を書き記している。更に定期的なサービス担当者会議を行う事で、次の介護計画に繋がる取り組みをされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の家族が遠方から来られた時など、2～3日宿泊(食事や入浴も可)出来るように準備がなされている。また、入居者が入院中にはホーム側が洗濯をしたり、病状によって付き添いが必要であれば家族と交代で管理者が泊まる等、その時々状況に合わせた柔軟な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望にそって医療が受けられるように支援されており、受診記録ノートを作成して、どの職員が見ても分かる様に管理出来ている。また入院された場合も、こまめに見舞いにいき、状態を把握されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに向けた指針が用意されており、入居者のご家族によく話し合い、同意書をいただいている。また過去にも数名、見取りをされた事があり、緊急時の場合でも対応できる準備がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けは定期的に話し合わせ、入居者のプライドを傷つけないように留意されている。また運営推進会議でも入居者の名前を出さず、Aさんと表現するなど個人情報には細心の注意が払われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとり生活のリズムが違うので、当ホーム側の都合で無理強いすることがないように注意されている。また個々の個性を大切に考えられ、日々のコミュニケーションを取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にとって食事は楽しみであることを当ホーム側は理解されており、食事は個々に合わせておにぎりの大きさ・飲み物のカップ等、食べやすい工夫がなされている。またテーブル拭きなど、入居者と一緒になって過ごされる工夫がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当ホームは毎日入浴できるようにしてあり、毎日入浴される方や、入居者の希望や状態で清拭をされたりする。また入浴を拒否する方には優しく語りかけ、入浴を楽しめる工夫がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔取った杵柄の如く、縫製の仕事をなされた方に雑巾縫いをお願いしたり、囲碁や花札などの趣味も充実している。またレクリエーションを通して楽しく過ごせるよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブに止まらず、居心地の良い中庭の芝生に出て日光浴をされるなど、各々にあった外出支援をなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵を掛けず開放されており、常に出入りが自由である。散歩をされる入居者にはさりげなく一緒に付いていくなどの工夫がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対する災害対策は様々な条件のシュミレートがなされており、マニュアルも充実している。また裏口にはスロープが用意され、避難しやすい工夫がなされている。しかし地震などの災害対策はまだなされていない。		地震時に考えられる火災等、あらゆる災害を想定して新たに別に地域の避難場所や避難ルートの再確認を含め、火災以外の災害にも対応できることが望まれる。また地域の方の協力も更に働きかける事に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食などは毎回5～6品出され、栄養バランスを考えられている。水分摂取量も注意が払われており、あまり水分を取りたがらない入居者に対しては飲み物に変化を付けるなど工夫されている。また外部に食事のメニューを見てもらうなど、日々研磨されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングも十分な広さがあり、また暖かみのある畳の間もある。観葉植物などの緑が目や心を和ませ、中庭の奥には菜園があり、季節の野菜などで季節を感じる工夫が成されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が持ち込んだテレビや、視力が弱い方にはラジオが用意されている。また筆筒やご家族の写真などがあり、居心地よく過ごせるような部屋になっている。		